

埼玉大学紀要（教養学部）第51巻第1号 2015年

ろくでなし子事件に関する意見書

My opinion of the Rokudenashiko affair

牧 陽 一*

Yoichi MAKI

ろくでなし子（五十嵐恵）事件の経過は以下の通りである。

2014年7月14日 わいせつ電磁記録頒布の疑いで逮捕。3Dデータをわいせつ物と認定するのは全国で初の事案となる。

7月15日 ろくでなし子の即時釈放を求める署名活動が立ち上がる。翌16日には一万五千人の署名が集まる。

7月15日 裁判官が準抗告を認め、釈放決定。

7月18日 釈放。ろくでなし子の即時釈放を求める署名は最終的に二万一千人以上の賛同が集まる。

7月24日 外国人記者クラブにて会見。世界に「MANKO」を発信する快挙を果たす。

同日、米国NYのThe daily showというニュース番組で、事件について“我が国アメリカはいろいろ問題を抱えているが、芸術家自分の性器を3Dプリントした容疑で逮捕するよりマシだ”と取り上げられる。

9月 オランダのメトロポリステレビに3度目の出演。

10月5日 東京藝術大学シンポジウム 表現の規制と自由 —ろくでなし子逮捕事件、そし

て、身体表現のポリティクス」に登壇。芸大のキャンパスでも「まんこ」を連呼する。

10月18日より「週刊金曜日」にて逮捕拘留漫画の短期集中連載開始。

11月 Tokyo Designers Week 2014内 TDW アートフェア前期準グランプリ受賞。受賞理由は「作品の質はどうでもいい、生き様がアーティストだ」。

12月3日 二度目の逮捕。

12月6日 接見禁止命令決定。準抗告申し立てる。

12月8日 接見禁止命令は取り消されるが、準抗告は棄却される。

12月15日 勾留延長への準抗告が棄却される。

12月17日 抗告が棄却される。

12月22日 勾留理由開示裁判（自分は何故勾留されねばならないのか、言い分や信条を法廷で主張できる裁判）。ろくでなし子のまんこ発言に対し、裁判官が「言い方を工夫しなさい」と制止する中、あきらめずに「まんこ」を2回言い続ける。

12月24日 「わいせつ物陳列」「わいせつ電磁的記録等送信頒布」「わいせつ電磁的記録記録媒体頒布」の三件の起訴決定。

12月26日 保釈申請が認められ、保釈金150万円で保釈される。

...

* まき・よういち

埼玉大学大学院人文社会科学部教授、中国現代文化

2015年4月15日 東京地検にて初公判
5月11日 第2回公判
6月16日 第3回公判
8月20日 第4回公判
裁判資料不足のため10月15日に延期
(ろくでなし子のろくでもない年譜より)

以下が東京地方裁判所に提出した筆者の意見書である。

0、アイ・ウェイウェイの言葉から

私は東アジア文化、現代アートを専門にする研究者として、文化・アートと美術家ろくでなし子(五十嵐恵)氏の作品との思想的関係を論じ、五十嵐恵氏とその作品が我々人類の文化を継承し、文化の進化に多大な貢献を成すものであり、犯罪などには全く相当しないことを述べたい。

アイ・ウェイウェイはろくでなし子さんの作品から以下のように筆者に言っている。

「社会道徳全体で、男は女を自分の財産や社会的地位の一部とみなしている。女性器も(男性によって)私有化されているのだ。男性が女性を支配していると誤解している。」

「歴史上の変化の度、哲学上美学上の変化は常に性と関わっている。文芸復興にせよモダニズムにせよシュルレアリスムにしても1960年代のロックまでも全てが性の解放と関係がある。性の解放とは自らの嗜好に合わせて性の傾向、好み、方法を選ぶ権利があるということだ。性の認識もまた人類の自己認識の一部だ。性への認識と理解がなければ、人類が自己を理解することはできない。なぜ性の解放と自由が必要なのか、それはフェミニズムの一部であるばかりではなく、人類の進歩の一部でもあるからだよ。」ⁱ

1、女性器は生命の象徴、ランドスケープとしてのろくでなし子アート。

『莊子・齊物論』によれば古来中国では人間や哺乳類の身体にある穴を九穴(または九竅きゅうきょう)とした。両目、両耳、両鼻腔、口、尿道、肛門である。ここには陰道(ヴァギナ)は含まれていない。女性なら十穴であるはずだが、あくまでも男性の身体が基本とされ、人の半分が女性であるにもかかわらず、その身体、特に女性器は無視され続けてきたのである。ⁱⁱ 女性器を認識することは自己を認識することであり、そこから自己の確立がはかられる。しかし二千年もの間、女性も人類も自己の認識にいたるための身体への認識が欠けていたのである。

世界文学に影響した中国近代文学者魯迅は晩年の作品『故事新編』の序文で、保守派の台頭に対して「この(保守派の)可哀想な陰険さは滑稽なものだった。それで何としても、古代の衣冠束帯の小男を女媧(世界、人間を創造した女神)の両太股の間に出現させないわけには行かなくなった」と述べている。言うまでもなくいかなる権力者も女の股間から誕生することを以って、社会の進化を妨げる保守派を風刺し、批判したわけである。近代以来の課題は未だに解決はしていない。好戦的な男性中心社会の変革に女性器をテーマにしたろくでなし子アートは重要な貢献を果たすだろうⁱⁱⁱ。

さらに魯迅は小説「阿長と山海経」の中で、乳母の阿長(アーチャン)との思い出を語っている。アーチャンは太平天国の乱(1851年-1864年)では若く美しい女性が誘拐されたという。幼年の魯迅は、アーチャンは若くも美しくもないから安全だろうというのだが、アーチャンは次のように答える「私にも使い道があるのですよ。城外に兵が来たら、長毛賊(洪秀全

軍)は私たちにズボンを脱がせて、城壁の上に並ばせるのです。そうすると外から打ってくる大砲は発砲できなくなるのです。無理に発砲しようとする、自爆してしまうのですよ。」これは明清時代に信じられていた「陰門陣」と呼ばれる「まじないで屈服させる」作用である。大砲には霊が宿っており、陰門の穢れによって魂が抜けて発砲できなくなるという迷信であり、多くの人が信じていた。^{iv} 当時の戦争では大砲がもっとも強力な武器であったことに説明は要らない。と同時にその形状から男性器を、好戦的な男性性をも象徴していないだろうか。

これは確かにつまらない迷信かもしれないが陰門(女性器)の持つ逆転の発想を見ることができる。つまり先に述べたように男性の身体観から無視され、最も無力で最も戦争からほど遠い存在が大砲に勝つという考え方である。つまり戦争の対極に女性器が存在したということである。女性器は何と言っても生命の根源であり、自然である。戦争は不自然な死をもたらす暴力的なものだ。こうした暴力的な男性性(陽)の対極に女性器(陰道)が存在し、ろくでなし子アートは反戦平和をテーマにしたメッセージ性の高い芸術作品であることがわかる。

ところで映画、大島渚監督「愛のコリーダ」1976では阿部定事件を取り上げている。ここで注視したいのは、末には殺害され男性器を切り取られる石田吉蔵が、人力車に乗っていて定の股間の生理の血を舐めるシーンである。これがショッキングなのは我々が今でも女性の生理に穢れのようなものを抱き続けているからだろう。これは後に述べる陳羚羊やジュディ・シカゴが月経の持つ穢れや汚れといった男性中心社会が作り出した既成観念に対する大島の姿勢を示している。そして日本が軍国主義へ向かう時代に男性器を切るという事件が起きたことを、大島

が敢て再び、映画で描いたのは、大島が男性性の暴力性を無化し、反戦のメッセージをこめためだったと考えるのは至極当然だろう。「愛のコリーダ」は、女性器をテーマにし、男性性の暴力性を批判的に捉える点でろくでなし子作品と相通じるものがあるだろう。つまり女性器に愛と反戦の意味をこめているのである。

またろくでなし子さんは以下のようにインタビューに答えている。

—データを3Dプリンタで出力すると、リアルになるんじゃないんですか？

3Dプリンタで作れるのは、固い樹脂製で単色のそっけないものです。何も知らない人がみたら、地形図みたいだと思うんじゃないでしょうか。樹脂を積み重ねてプリントするんで、ちょうど等高線みたいな感じもありますし……。

ここでろくでなし子さんは3Dプリンタによって出力した女性器が「地形図のような形状」と述べている^v。

ここで想起されるのは、古来東アジアで風水思想が発展してきたがその理想的な地形はまさに女性器の形状に酷似していることである。(図参照) 京都、北京、ソウルなど主要な都市はこの「理想的な風水」に従って設計されてきたのである^{vi}。ろくでなし子アートは狭小な身体性から超越するスケールの大きなランドスケープを内在させ、アート・プロジェクトの意図を持っている。この点を見失うと狭隘な理解に止まり、ろくでなし子アートの全貌を見失うことになる。様々なジオラマとまんこを合わせた「ジオラまん」の中でも「戦場まん」は正に反戦の意味を込めたものだ。またこうしたジオラマはアースワークへの設計図、コンセプトノートというに相応しく、実現への可能性を狙っている。ろくでなし子アートは、性器を素材とするアースワ

ークへの発展も可能にする視野であり、多くのファンや支持者が今後の作品展開に期待を寄せている。

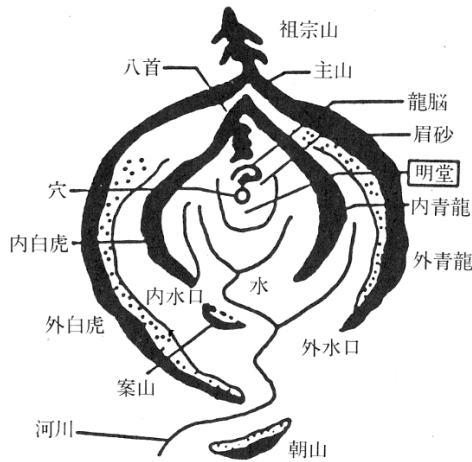


図1 理想的風水図

2、女性器は反暴力、平和の象徴であり、芸術家の世界言語である

さて身体と暴力から私たちの新しい歴史を振り返るとき、1989年の六四天安門事件がある。これは民主化を求めた学生たちが暴力によって鎮圧された悲惨な過去ではあるが、民主化の動きはヨーロッパにもつながり、ベルリンの壁崩壊をもたらした。

この時、戦車の前に立ちはだかる男の映像が全世界に報道された。中国政府は単なる暴徒と片付けたが、世界の多くの人々は違う解釈をしたはずである。武器も何も持たず、戦車の前に立った人間は自分自身であると。暴力に対して暴力で向かうのではなく、生身の弱くはかない、脆弱なる身体で対峙する。それが平和を求める人間の態度なのだと学んだのである。

そして現代アートでは1994年ごろから北京では「北京東村」というパフォーマンスグループが誕生し、性器を露出した全裸によるさまざ

まなパフォーマンスが展開され、中国美術史と世界の現代アートの歴史に刻まれていった事を言い添えておきたい。

また2000年上海でのFUCK OFF展で陳羚羊は生理の血のついた自らの女性器をトイレットペーパーに押し付けたものを表装した作品を展示している。警察の介入はなかった。またウェブ上では現在も陳羚羊の作品「十二花月」を閲覧できる。^{vii} これは12の月の花と月経の血の滴った自らの女性器を並べた作品である。この作品は70年代、カリフォルニアを中心に活躍したアーティスト ジュディ・シカゴの「赤い旗」1971「生理中のトイレ」1972 同様に男性中心社会が作り上げてきた月経にまつわる汚れ穢れといった既存概念への挑戦であった。^{viii} 正に海を越え、時を越えてフェミニズムアートが呼応し合い、同じ課題を提出している。そしてこれらの作品は自らの脆弱なる身体を賭して国家の暴力に対峙する作品群と考えられる。

また2004年インリン・オブ・ジョイトイは金門島で蒋介石と毛沢東の骸骨とベッドインするパフォーマンスを行った。これは権力者の持つ強大な身体（想像の体）を等身大に収縮させる。アートにおける女性の身体性は常に男性性の暴力性に向けられてきた。

またアジアから欧米に視点を移せば、先のジュディ・シカゴはじめ永きに渡って女性器は現代アートのテーマであり続けた。2012年5月から6月ロンドンのヘイヒルギャラリーではジェイミー・マッカートニー「ザ・グレートウォール・オブ・ヴァギナ」展が開催された。20カ国571人、18歳から76歳の女性たちがこのプロジェクトに参加した。石膏で型取りされた571人の女性器が展示された。1ヶ月間で数千人の観衆が押し寄せた。映像や画像はネット上で今も多数掲示されている。女性器はそれぞれ

異なり、その違いこそが美しいというメッセージが込められていた。自分の女性器にコンプレックスを持っていた女性たちも勇気づけられたと言う。また石膏によって同一の白色に統一された女性器は肌の色、国籍、民族による差異、差別からも女性をそして人類を自由にするものである。^{ix} 女性器のリピートはアンディ・ウォーホル以来のポップアートの手法だが、この手法を逆手にとってその一つ一つが異なり、個性を持つというメッセージが込められた。

ろくでなし子さんの石膏による型取りにも合い通じるが、さらにここにデコレーションを施すことで、個性を創意によって強調し、人間性の肯定へと繋がっている。一見稚拙な作品群はアートの大衆性と諧謔性に立脚している。アメリカのポップアートがやがて大衆性を強調し、1980年代ジェフ・クーンズらアメリカン・キッチュを志向して行ったように、ろくでなし子アートの「デモまん」は過剰な装飾や「金色の仏像」「ガンダまん」など意図的な稚拙さと悪趣味、諧謔性を見出せる。それは都築響一が秘宝館にその価値を見出し、みうらじゅんが仏像に傾斜して行ったように、従来悪趣味なものとして現代美術の範疇から排除されていた物を逆に愛でてみる。こうしたキッチュに通じる意図的な姿勢なのである。私たちはこの作品によって現代アートやサブカルチャーの流行に隠されたものを想起するだろう。私たちはユーモアを伴いながらもその底辺に確かに存在するジェイミー・マッカートニー作品に共通する女性性そして個性の尊重へと導かれるはずである。

大切なのは世界の多くの芸術家にとって女性器は重要な素材であり、共通する言語だということである。昨今のグローバリゼーションによって根本的な要素が析出される結果が見いだせる。つまり「まんこは世界言語」という事だ。身体を通して何を表現するか？何を示唆するか？こ

れは芸術の宿命である。芸術家が女性器をテーマにした歴史は古い。近年はフェミニズムの運動と共に女性自らの身体を男性中心社会から「とりかえす」活動として理解できる。ろくでなし子さんのアート作品もそれと無関係ではない。しかし高尚な思想を取って避け、諧謔性によって大衆化を意図している。アートを特別な階層や知識人に限るのではなく、大衆のものへと引き摺り下ろしたのである。そこが官憲に誤解され「自称芸術家」などと揶揄されたが、作品は既に世界の共通言語としての作用を発揮している。

さて今回警察側は3D複製技術の高度化によるピストルの製造等に対して犯罪の危険性を危惧している。それは当然だが、それをろくでなし子さんの女性器に当てはめられるのは本末転倒で真逆の結果となるだろう。全く対極にあるものではないだろうか？女性器は生命の象徴であり、平和の象徴だということである。拳銃は巨大化すれば殺戮の威力は増すだろうが、女性器を拡大すれば、医学の発展に貢献し、美術作品としてはその幅が広がり、その象徴性が大きくなり、人々に笑顔と平和をもたらすだけである。ろくでなし子さんが自らの女性器を3Dデータ化したのは美術作品の素材を精確に作るためであり、犯罪とは関係ない。また現代アートは美術史の変革をその使命とするから、常に最新の技術をその表現に取り入れるという特色を持つ。ろくでなし子アートが3D技術を採用するのは至極当然の事でもある。

ろくでなし子さんの作品は先に述べたとおり、女性性の認識の過程である。性の認識は人間の認識に繋がる。世界的アーティストであるアイ・ウェイウェイも言っているが、性の認識は女権主義フェミニズムの重要な要素であるばか

りか、民族的な差別からも解放され、人類の進歩と平和共存へと繋がっていく。* ろくでなしさんの作品は人間の法の最も根源的な表現の自由に関わっている。そしてその最大のコンセプトは世界の平和であり、世界とのコミュニケーションだ。よってろくでなし子アートは末端のわいせつ罪等で取り締まるべき対象ではない。

3、運動体としての文化

まず始めに言っておきたいことは、文化に固有の文化など存在せず日々変化し、流動していく「運動体」であるということだ。たとえば伝統的中国文化の代表的時代を問えば多くの中国人は唐代文化を上げる。しかし唐代の文化とはまさに西域の文化であり、中国文化の代表は外国文化であるということになる。日本の場合もその代表的文化は外国文化であり、漢代の中国文化だ。「きもの」は漢服であり、京都に残る多くの建築物も最重要な言語、漢字も当時の様式の輸入であることは言うまでもない。そして漢字からなる「思想」「科学」「社会主義」などの単語は近代以降中国へ逆輸入される。さらに今日日本の代表的食文化ラーメンは言うまでもなく中国のそれが元であるが今や中国に逆輸入されている。中国の麺文化に日本の出汁文化が融合して、世界を席卷する食文化へと変容したのだ。世界に冠たる日本のアニメ文化も元はアメリカのディズニーであり、今や相互に影響される関係になっている。ろくでなし子アートが媒介として漫画を使用するのはその大衆性と流通性、世界性を活用するためだ。

つまり相互の文化を尊重し合い互いに交流するとき、文化は盛大な発展を遂げるのである。つまり許容する力こそが重要であり、閉鎖した地域での新たな文化の発展は不可能である。戦時下の地域、専制による統制下の地域はこの閉

鎖された地域に匹敵する。日本は閉鎖された地域ではないはずである。すでに多くのアジア、欧米媒体がろくでなし子さん取材しており状況は世界中に知れわたっている。先に述べたとおり、現在身体、女性器を現代アートの素材として用いる方法は世界に共通している。つまり女性器という共通する言語でそれぞれの国や地域や個人が表現を発信し、共有している。つまり世界の会話がここに成り立つアート・プロジェクトとしての「場」を提供しているのである。性器を素材とし、漫画も媒介とするろくでなし子アートはまさに運動体としての文化そのものであり、豊かな文化の成立を予期させ、グローバル・コミュニケーションを可能にする。

ろくでなし子さんの作品はアート・プロジェクトとしてトータルに考えるべきである。現在出版された『ワイセツって何ですか?』は主に後に述べるポップアート大衆美術の先鋒としての漫画作品だがこれこそ日本の冠たる文化媒介を使った大作といえるものであり、日本ばかりではなく、翻訳も出版され世界を席卷するであろう。また本裁判までもが作品の一部となっていくだろう。それを表現の自由という普遍的問題を無視し、わいせつ罪という瑣末な領域での判断を日本警察、司法が下すならば、世界の笑いものとなるだろう。

4、現代アートの言語アート・プロジェクトで交流の「場」をつくる

さて美術史を考えてみよう。

マルセルデュシャンは自転車の車輪1913や、小便器を美術展に出品し1917、アートとは何か、という命題を提出し、人々に新たな思考を喚起した。この時から近代美術の枠組みが大きく揺らぎ始めたのである。そもそも作家がものを作ったり描いたりすることがアートなのか、とい

う疑問であった。

一見合理的に見える近代美術は、作家の精神が絵筆に宿るというアウラの存在を信じた。しかしそれは先に述べたような前近代に大砲に魂が宿るといった言説と同様「迷信」に過ぎない。アンディ・ウォーホルはまさにその迷信から脱して印刷物同様の反復によって崇高なもの信じられてきた近代美術の権威を引き下ろし、ポップアートの先達となった。

さらに現代アートは、近代美術のキャンバスと額、彫刻の台座という美術を閉じ込める枠からアートを開放していく。またパフォーマンスアートやインスタレーションは美術館や博物館といった空間からも飛び出していく。そして現代アートは広大な現実空間を獲得するばかりか、コンセプチュアル・アートまで領域を広め、脳の中の自由、無限の思考世界までアートの領域を広げてきたのである。

空間ばかりかアートの主体も作家から大衆へと変容、拡散を遂げている。

コンセプチュアル・アートは表出された「もの」ばかりではなく人間の「思考」までもがアートとなることを提示した。アート・プロジェクトはクリストの梱包が最初かもしれない。xii クリストは 1960 年代末から、建築物や島や海岸を梱包し、壮大なスケールのアースワークを展開した。ここで作家個人だけではなく多くの協力者によってコンセプトを実現させていく。しかし作品の空間に意識は行っても明確な社会作用は打ち出してはいなかった。ヨーゼフ・ボイス^{xiii}は 1982 年ドクメンタ 7 でドイツカッセルに 7 千本の樫の木を植えるアート・プロジェクトを行う。ここからプロジェクトが単なる空間の創出ではなく、人と人との関係を発生させる「場」へと変容したのである。日本の美術家宮島達男は 1995 年原爆の落ちた長崎で焼け焦げになりながら生き残った柿の木を世界各地に

広めていく。「時の蘇生・柿の木」プロジェクトは平和の尊さというメッセージを世界へと伝播させ、現在も継続されている。このように作家が何かを作るという美術ではなく、作家や支援者たちの思考メッセージが生きた樹木によって伝播するその全体の過程が作品となった。つまりアート・プロジェクトは人と人をつなぐ「場」を提供する全過程をその作品と見なすことになる。ろくでなし子アートは正にアート・プロジェクトといえる。マンボートを作るためのクラウドファンディング、多摩川での進水式、3D 作品の創出と伝播、支持者らの作品制作と再伝播、さらに作品に関する討論の場はシンポジウム開催、SNS 上にまで広がり拡張を止めない。

なおクラウドファンディングは若く貧しい映画監督やアーティストがよく使う方法だ。ネット上で作品のコンセプトを説明し、資金を提供する気持ちのある支持者を募るもので、現在多くのアーティストが採用している。ろくでなし子さんの方法は現在では全く奇異なものではないことを申し添えておきたい。

ろくでなし子アートは世界の共通言語である身体、女性器を素材にしている。また SNS インターネットによって世界の媒介に広がっている。この事によってろくでなし子アートはグローバル・コミュニケーションが成立する「場」としての機能を果たすことになる。それは自由な文化の交流を果たし、豊かな文化を創っていく礎になるものと期待される。

5、アイ・ウェイウェイとろくでなし子アート

こうした過程の全てを作品と見なすアート・プロジェクトはアイ・ウェイウェイの作品と行動に如実に現れている。

アイは 2008 年の四川大地震の後、現地に入り、倒壊した小中学校校舎の調査を進めた。校

舎の多くは手抜き工事による倒壊とみとめられたが、当局は事実を隠蔽し、被災者の名簿さえ公表しなかった。アイは亡くなった5千名以上の小中学生の名簿を製作し、SNSで公表していった。しかしこれを嫌った政府当局は2009年成都警察を使ってアイを襲撃させ、右頭部を内出血させる。アイは成都警察を告訴した。さらに2011年には政府はアイを81日間逮捕拘留した。現在も自宅軟禁を強いられている。出獄後、政府と結託した司法はアイが女性ファンと撮ったヌードの記念写真をワイセツと見なそうとしたが立件できず、次に脱税罪で起訴した。しかしわずか10日間で約3万人にのぼる支持者が総額約2億円をアイに貸付け、裁判を継続させた。アイは調査、警察の襲撃、手術、告訴の映像、獄中の模様の再現、支持者への借用書に至るまで全ての記録を作品とした。アイ・ウェイウェイが現代アートの代表的な世界的アーティストであることに説明は要らない。現在のアートは思索と行動から伝播に至る全てが作品と見なされる状況にある。^{xiii}

アイのこうした方法はろくでなし子さんの作品と酷似している。作品を作るに至った理由やプロセス、クラウドファンディングによる募金、支持者への返礼、2度にわたる逮捕、裁判の内容に至るまで全てを漫画作品やSNSで公表していく。これは全プロセスと思考を作品と見なすアート・プロジェクトの方法に他ならない。アイは脱税罪容疑がかかった際、金を貸してくれた3万人もの支持者一人ひとりに借用書と陶器でできたひまわりの種2粒を返礼している。(「ひまわりの種」はアイの代表的作品のひとつ。2010年ロンドンのテートモダンで開催された。1億粒の陶器製のひまわりの種を1000平方メートルの床に敷き詰めた。)つまり支持者への返礼にこの作品を伝播させているのである。ろくでなし子さんが支持者への返礼として3Dデー

タをダウンロードできるようにしたのも、作家の方法でデータから自らの作品を作り、作品を拡散、伝播させていくことだが、まさにアイの方法と通底している。

またアイの作品では四川大地震で亡くなった子供の名簿をブログに掲載した。また現在はツイッターで亡くなった子供たちの誕生日を記念している。2007年ドイツカッセルでのドクメンタ12では1001人の中国人をカッセルの招く全過程を作品とした「童話」を行った。ここで参加者はブログで募集された。また映像作品はユーチューブに公表していく。アイはSNSインターネットを駆使している。こうしたインターネット、3Dデータといった新しい媒介を活用する方法もろくでなし子アートと酷似している。現代アートは表現上最新のテクノロジーで常にアートを変えていく宿命があるから当然の事なのである。

また自らの悲惨な境遇を笑い飛ばすユーモアも両者に共通していることも申し添えたい。

以上の思索のプロセスと結果から、ろくでなし子アートは自己認識という哲学的命題、生命、反差別、反暴力、反戦、平和というメッセージを伝える芸術作品であり、ワイセツとは全く関係がない。

ⁱ 「アイ・ウェイウェイ インタビュー (聞き手・牧陽一) ろくでなし子、芸術の表現、フェミニズム...」『週刊読書人』2015年04月17日

^{xiii} 九穴：通俗的讲：“九窍”即指人体的两眼、两耳、两鼻孔、口、前阴尿道和后阴肛门而言。出处：《庄子·齐物论》：“百骸、九窍、六藏，骸而存焉，吾谁与为亲？”经典说法“九窍”中前阴尿道谓之窍，很少有将前阴阴道谓之窍的。

^{xiv} 原文：...这可怜的阴险使我感到滑稽，当再写小说时，就无论如何，止不住有一个古衣冠的小丈夫，在女媧的两腿之间出现了。

iv 原文：「城外有兵來攻的時候，長毛就叫我們脫下褲子，一排一排地站在城牆上，外面的大炮就放不出來，再要放，就炸了。」澤田瑞穂は「以陰剋陽説」を唱えている。澤田瑞穂『中国の呪法』平河出版社 誰もが目にするウィキペディア中国語版でも陰門陣：古中國人將火砲當作有靈性的雄性物，加上女性穢物自古被視為具厭勝作用，兩項結合遂產生了陰門陣。此術多出現於明清战场上 http://zh.wikipedia.org/wiki/%E9%99%B0%E9%80%E9%99%A3-cite_note-.E6.96.B0.E5.8F.B2.E5.AD.A6.EF.BC.9A.E5.A4.9A.E5.AD.A6.E7.A7.91.E5.AF.B9.E8.AF.9D.E7.9A.84.E5.9B.BE.E6.99.AF-3。不論是官史、野史皆有記錄；不論是官軍、民軍皆有使用；不論是民眾、高官皆有信者。…とある。

v 弁護士ドットコム話題のニュース2015年04月12日 11時46分【インタビュー】なぜ「ろくでなし子」は「女性器アート」を作るのか？（下）

vi 村山智順：『朝鮮の風水』朝鮮総督府、1931（1971年復刻版）、渡邊欣雄著：『風水思想と東アジア』人文書院 1984年402-405p

第5回MKCRセミナー：天島秀秋（武庫川女子大学関西文化研究センター客員研究員）京都とソウル—風水思想と歴史的都市の圍繞区間—題目：2004年10月19日（火）17時～18時30分：武庫川女子大学中央キャンパス

vii Artda 艺术档案 > 人物档案 > 艺术家库 > 国内 > 陈羚羊 (Chen Lingyang) 2009-11-13 16:16 来源: 艺术档案网 作者: artda 2015年04月22日 閱覽 <http://www.artda.cn/view.php?tid=2520&cid=28>

viii 北原恵『攪乱分子@境界—アート・アクティヴィズム II』インパクト出版社2000年49p

ix マッカートニー氏 「女性器に肌の色や国籍による違いはない」 2015年5月9日 閱覽 http://www.news-postseven.com/archives/20120811_136189.html

x 「アイ・ウェイウェイ インタビュー（聞き手・牧陽一）ろくでなし子、芸術の表現、フェミニズム…」『週刊読書人』2015年04月17日

xi クリスト (Christo, 1935年-) は、ブルガリア、ガブロヴォ生まれの美術家。

xii ヨーゼフ・ボイス (Joseph Beuys, 1921年-1986年) は、ドイツの現代美術家・彫刻家・教育者・社会活動

家。

xiii 拙著編『艾未未アイ・ウェイウェイ読本』集広舎2012、『アイ・ウェイウェイ スタイル』勉強出版2014、特にスタイル末尾「アイ・ウェイウェイ クロニクル」246-254p参照。

付記：2015年6月11日、北京でろくでなし子氏とアイ・ウェイウェイ氏の対談を企画実行した。「対談：艾未未×ろくでなし子」企画、文、訳 / 牧陽一 Web 「ARTYIT」 2015年7月7日 掲載 http://www.art-it.asia/u/admin_ed_contri13_j/lo2GJytpL9N6T7b0MV85/

付記2：2015年8月29日～9月20日、香港九龍油麻地上海街404号活化庁で、ろくでなし子トリビュートジェンダー、ジェニター、ジェニタリア展が開催された。日本と香港の10数名のアーティストが参加した。